

母校の誇りを胸に最後の巣立ち

～ 登別温泉中学校閉校記念式典～



卒業証書の授与



温中熊舞



校旗の返納

3月14日(日)、登別温泉中学校閉校記念式典が同校体育館で行われ、在校生と同窓生、父母、地域住民、旧教職員など約200人が思い出の染み込んだ学び舎に別れを告げました。

昭和22年5月創立の同校は、温泉地区の職住分離と少子化を背景に生徒数が昭和39年の184人をピークに減少が続き、平成16年度から登別中学校へ統合します。

記念式典は同校最後となる13人への卒業証書授与式に続いて開かれ、上野市長が「登別温泉中学校の貴重な歴史と数々の業績を心から称えるとともに、学校を支えてこられた関係者のみなさんに深甚なる謝意を表します」と式辞を述べたあと、開校以来の学校生活をスライドで振り返るとともに、地域文化遺産活動として取り組み続けた『温中熊舞』を披露し、会場から大きな拍手が送られました。

北越政則(きたえしまさのり)学校長が「地域とともに歩んだ人間教育。多くの優れた人材を輩出し、今、その使命を立派に果たしました」と別れのことばを述べ、北越校長と生徒会長の平塚大祐君(ひらつかだいすけ)の手から上野市長に校旗が返納されました。

最後に出席者全員で校歌を斉唱し、春の訪れとともに57年にわたる校史を閉じました。

身近な資源をリサイクル

～ マイバック講習会～

2月16日(月)、クリンクルセンターで『マイバック講習会』が開かれ、参加した約30人の市民は、傘の布地を再利用したバックづくりに取り組みました。

この講習会は、買い物の際、店が用意するレジ袋を使わず、自分の買い物袋(マイバック)を持参することにより、資源の再利用やごみの減量化、リサイクルの啓発を図ることを目的としたもので、登別市衛生団体連合会が登別消費者協会の協力を得て、初めて開催しました。

参加者は、講師の説明を聞いた後、壊れて使えなくなった傘から切り取った布地をミシンなどで縫い、資源の再利用やリサイクルなどについて理解を深めながら、バックをつくっていました。



傘の布でマイバックづくり

中等教育学校をしっかりとサポート

～ 『中等教育学校を支援する市民会議』発足～



中等教育学校を支援する市民会議

3月3日(水)、市民会館で『中等教育学校を支援する市民会議』の設立総会が開かれました。

この会議は、平成16年度から登別高校敷地内で道立中等教育学校の建設工事が着工されることを受け、同校が登別にふさわしい中等教育学校となるよう開設や運営、教育課程などについて支援・協力をしようと設立されたものです。

会議は、これまで中高一貫校の誘致活動の中心を担ってきた『中等教育学校誘致期成会』のメンバーがほぼ移行した登別商工会議所や登別温泉旅館組合、市内の文化団体の代表などにより構成され、議長には上田俊朗さん(登別商工会議所会頭)、副議長には岩井重憲さん(登別温泉旅館組合副組合長)が選ばれました。